

子規の死 **その2**

子規を継いだ人びと

その後のはなし

子規が亡くなった後も、俳句、短歌、写生
文などそれぞれの分野で子規の仲間たちが活
躍しました。子規の文学活動は、仲間たちに
しっかりと受け継がれていったのです。

子規の仲間たちが
たくさん活躍
しているんだね。



文学の世界で活躍した子規の仲間たち

1. 写生文



夏目 漱石 (1867~1916)

子規の影響で本格的に俳句を作るようになった漱石。山会にも参加しました。そして、日本を代表する小説家になりました。

有名な小説



▲坊っちゃん



▲吾輩は猫である

2. 俳句



河東碧梧桐 (1873~1937)

子規に俳句やベースボールを教わりました。そして、新聞「日本」の俳句を選ぶ仕事を、子規から受け継ぎました。後に、5・7・5の形にこだわらない、自由な俳句を作りました。

有名な俳句

赤い椿
白い椿と
落ちにけり

さくら活けた
花屑の中から
一枝拾ふ



高浜 虚子 (1874~1959)

碧梧桐から子規を紹介され、俳句を教わりました。のちに「ホトトギス」の編集長として、日本派俳句の活動を引っぱりました。また、小説も書きました。

有名な俳句

遠山に
日のあたりたる
枯野かな

夏の蝶
日かげ日なたと
飛びにけり

※このシートでは、明治1年=子規1才、明治2年=子規2才...としています。

3. 短歌



伊藤左千夫 (1864~1913)

子規庵で開かれる短歌会の活動を広めるために、短歌の雑誌「馬酔木」を作りました。また、山会に参加し、小説も書きました。「野菊の墓」が有名です。

有名な短歌

半銅が
歌詠む時に
世の中の
あらたしき歌
大いに起る



長塚節 (1879~1915)

子規の「歌よみに与ふる書」を読んで感動し、子規庵での短歌会に参加しました。伊藤左千夫とともに、子規がよびかけた新しい短歌を広めました。また、小説「土」も有名です。

有名な短歌

たらちねの
母がつりたる
青蚊帳を
すがしといねつ
たるみたれども

いくつ知ってる？

教科書によく出ている子規の俳句と短歌

俳句

- ・ 赤蜻蛉 筑波に雲もなかりけり
- ・ 梅雨晴れやとほろどほろに 蟻の道
- ・ 六月を 奇麗な風の吹くことよ
- ・ 鶏頭の 十四五本も ありぬべし
- ・ 春や昔 十五万石の 城下かな

短歌

- ・ 瓶にさす 藤の花ぶさみじかければ
たたみの上にとどかざりけり
- ・ いちはつの 花咲きいでて 我目には
今年ばかりの 春ゆかんとす
- ・ 夜の床に 寐ながら 見ゆる ガラス戸の
外あきららかに 月ふけわたる
- ・ 夕顔の 棚つくらんと 思へども
秋待ちがてぬ 我いのちかも
- ・ 久方の アメリカ人の はじめにし
ベースボールは 見れど 飽かぬかも

